

しば子先生の

ミ

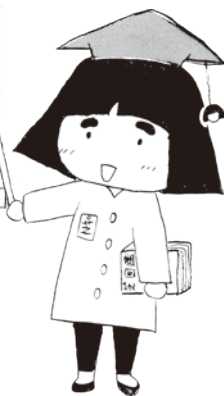
ニ

ミ

ニ

芝生教室

第91回 排水と焼け



先生：肥料焼けの話から塩類指標、細胞内の濃度・・・いろいろ肥料焼けの問題について話してきたけど理解できてるかしら？

生徒：はい、肥料焼け自体は水溶液の濃度差から来る障害として葉の表面や土壤中の根に起こりますが、肥料の間違った散布だけでなく、芝生の生育状態によっても濃度障害の起きやすさが変わります・・・

先生：そのとおりね・・・肥料の種類によって焼けやすさは違うけど・・・でも出来るだけどんな肥料でも播ける良い芝生の状態に常にしておかないと、管理の選択肢はどんどん狭められてしまって厳しい気候条件や管理条件下では対応しきれなくなってしまうわ・・・

生徒：本当にそう思います・・・肥料を選ぶのにも知識が必要ですしその使い方もきちんとしないといけないし・・・それ以上に芝生を常に十分に養分がいきわたった状態にしないといけないという事が最も重要ですね・・・

先生：肥料を切って転がりがいい・・・なんて言っているとすぐに芝が無くなるわ・・・ところで土壤条件によっても肥料焼けが起こりやすくなるのはわかってる？

生徒：え？・・・肥料の塩指標、芝生の細胞内の細胞液の濃度・・・そして土壤条件も関係あるんですか？

先生：そうなのよ・・・実はこれがかなり重要なよ・・・

①図のように粒子が粗目でそろっていて、粘土粒子や有機物の少ない土壤では水の流れはとても速やかで土壤の広範囲に広がるわね・・・

生徒：なるほど・・・確かに土壤粒子の間・・・つまり孔隙（こうげき）の部分がたくさんあるから水が浸透して広がりますね・・・

先生：そうね・・・それに対して

②図のように細かい粒子とその隙間に有機物や粘土粒子がたくさんある土壤では、水の流れが遅くなってなかなか深く広くは浸透しない・・・

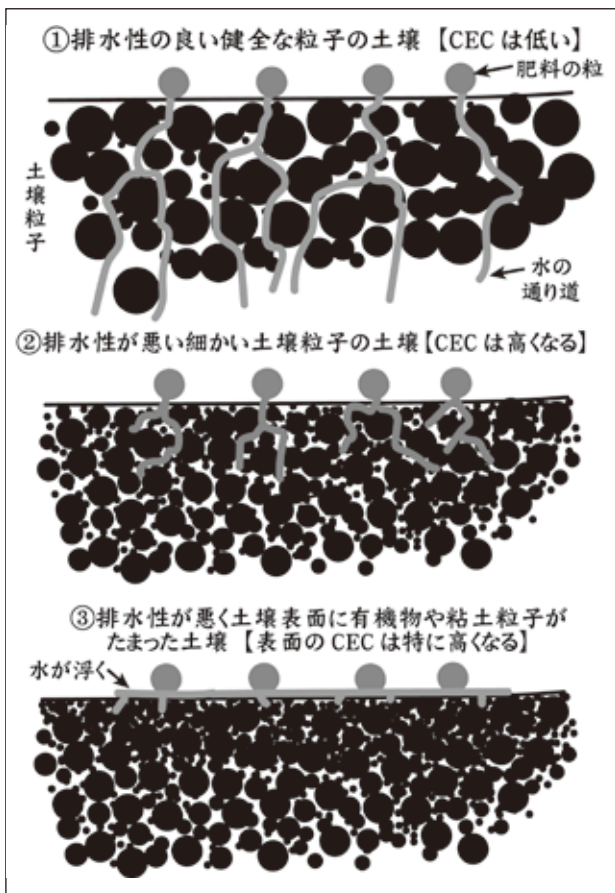
生徒：なるほど！・・・土壤粒子の隙間で水がひっかかってしまいます・・・という事は土壤の表面近くで肥料の溶液の濃度が上がってしまう！

先生：そのとおり・・・排水性の悪い土壤は排水性の良い土壤より土壤表面の肥料溶液の濃度が上がってしまうのよ・・・しかも土壤の孔隙が多い土壤では根は深く広く広がるのに対して排水性の悪い目詰まりを起こした土壤では根が浅くて少なくなるから濃度障害に対してすでに弱くなっているのよ・・・

生徒：まさに最悪ですね・・・

先生：そのうえ人間がなおも上から有機物などを播き続ける

と土壤表面が水を通さなくなるから水が滞留するようになって表面に濃い濃度の水溶液が簡単に出来て芝生が一気に枯れてしまうことになるわ・・・排水性の悪い土壤では肥料の種類と播き方、播く量を十分に考えないと大変な事になるわね・・・一度そうなった土壤を元に戻すのは大変な手間と時間がかかるわよ・・・



しば子先生への質問や励ましのメールはこちらへ・・・
shibako@hugh-enterprise.co.jp